

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 26 年度

事業所番号	2773801085		
法人名	株式会社 フィールド		
事業所名	グループホームこころあい		
所在地	大阪府羽曳野市島泉4-3-18		
自己評価作成日	平成 26年 5月 10日	評価結果市町村受理日	平成 26年 6月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&jigovosyoCd=2773801085-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 5月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的(家族的)な雰囲気を大切にし、入居者様にとって安らぎある我が家となるようなホーム作り。 ・三位一体(入居者様、家族様、職員)でのホーム作り。 ・地域密着型サービスとして、地域との繋がりを大切にし、家族介護教室の開催や地域の方々との交流を通じ地域に根付くホーム作り。 ・市内の他ホームとの交流を通じ、合同での介護フォーラムの開催やこころあい通信の発行等、認知症や高齢者介護に関する情報を共有、提供し、地域貢献ができるホーム作り。 ・単独でのホーム運営に留まらず、同法人内の各グループホームとの協力体制を構築し、サービス提供の質向上を図れるホーム作り。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>代表が、自分の身内が認知症になったことをきっかけに自宅を改修し、開設したグループホームです。「心豊かにその人らしい 安心ある 暮らしを大切に愛と笑顔で共に歩む」の理念を掲げ、地域密着型サービスの事業所として、関わるすべての人たちと共に歩んでいきたいとの思いを込めています。ホームの裏手にある小学校からは、元気な子ども達の声が聞こえる環境にあり、小学校の登下校時の見守り隊など、交流が深まっています。日々の暮らしの中で利用者の瞬間・瞬間を大切にし、利用者を中心とした支援が実践されています。「利用者と職員の会話が絶え間なく弾む毎日が自慢」と話す、管理者・職員が支える利用者の生活は、明るく笑い声がいつも聞こえてくる毎日です。サービスのさらなる向上を目指そうとする管理者や職員からの姿勢から、今後より一層の充実が期待できるホームです。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念「心豊かにその人らしい安心ある暮らしを大切に愛と笑顔で共に歩む」を、ホーム内数か所に掲示し、理念に託した思いも含め、職員間はもちろん、地域の福祉委員、家族様とも共有し実践に向け日々取り組んでいる。職員による外部研修受講の際の自施設実習課題に、職員間での理念の共有を組み込むなどし、実践に取り組んでいる。家族様への毎月のお便りにも掲載し、地域の住民やホームに関わる全ての人々が心豊かに安心ある生活を送れるようにと取り組んでいる。	「心豊かに その人らしい 安心ある暮らしを大切に 愛と笑顔で 共に歩む」を理念に掲げ、地域密着型の事業所として、ホームに関わるすべての人たちと共に歩んでいきたいとの思いを込めています。職員新人研修では、理念に託した思いを伝え、職員は理念を実践しています。運営推進会議等でも、参加者に理念を理解してもらうように伝えています。家族に毎月送る「こころあい便り」には、理念を載せ、家族にも理念を理解してもらう働きかけをしています。また、利用者・家族、訪問者に理念をより理解してもらえよう、リビングやエレベーター内にも掲示しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉委員とのお花見や花火、小学校の登下校時の旗振り（見守り）への参加や運動会の見学、中学生の職場体験受入、近隣への散歩、なじみの店への買い物等、地域住民との交流を大切にし、地域の一員として繋がりをもてるよう、理念に掲げる「その人らしい」を大切にしている。 地域住民の方々に避難訓練にも参加して頂き、外出行事にも同行して頂く等の交流の機会を大切にしている。 また、AEDの設置、こころあい通信の発行、家族介護教室の開催等を通じ、地域に役立てるよう取り組んでいる。	町内自治会に加入し、地域との交流には積極的に参加しています。自治会の清掃活動には、職員と利用者が参加しています。小学校の登下校時の見守りも定着し、学校から登下校時間の予定のお知らせが届きます。見守りに出かけることで、日常的に小学生と挨拶を交わす関係ができています。入学式には、利用者が作ったお祝いを届けました。市からの委託事業で公民館を借りての介護教室「知っと講座」も地域の人たちから喜ばれています。地域の福祉委員との花見や花火で、より地域住民との交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室（認知症知っとこ～座）、介護フォーラム、キャラバンメイト養成講座、年3回のこころあい通信の発行等を通じ認知症や高齢者の介護に関する情報提供や、相談会を行っている。 また、地域住民との交流を通し、認知症高齢者への理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者様の近況報告、当ホームの取り組み、行事報告、家族様からの意見や要望等を報告し、参加者からの意見を頂いている。また、ホームからも課題となっている案件があれば、運営推進会議をとおして、助言を求め、協力を要請する等、サービス内容の向上に活かせるよう取り組んでいる。</p> <p>ヒヤリハットや事故報告等もホームの課題として報告し、意見を頂戴し新たな取り組みに繋げている。</p> <p>会議等で頂いた意見は、全体会議を通し全職員に報告し、新たな取り組みやホームの運営に活かしている。</p>	<p>家族会代表・地域福祉委員・民生委員・地域包括支援センター職員・介護相談員等の参加で、2カ月に1回開催しています。会議では、主にホームでの行事や利用者の状況等を報告し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。報告だけに終わるのではなく、ホーム内で困っていること、悩みも理解してもらい、アドバイスをもらえる場としても活用し、サービスの向上に活かしています。参加者からの意見で、避難訓練に地域住民の参加を得ることができました。また、外出時には会議メンバーの協力を得ており、利用者も喜んでいきます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>定期的な運営推進会議、GH部会やキャラバンメイト養成講座をとおしては基より、日常においても相談や問題（苦情・事故）が生じた場合は、必ず連絡し助言を頂きながら、協力関係の構築に取り組んでいる。</p>	<p>地域包括支援センターや市の担当窓口、いつでも相談できる関係を築いています。市からの委託事業の「知つと講座」を開催し、地域の方たちに喜んでもらっています。市内のグループホームと市の担当者が出席するグループホーム部会では、情報交換と連携を深めています。また、市内グループホームに入居する利用者の交流の場「にじの会」にも市の担当者が出席しています。介護相談員も定期的に訪問し、サービスの向上に繋げることができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ホーム内の研修（勉強会）や外部研修への参加をとおし、身体拘束に関する理解を深め、言葉の使い方や、心情に関する事柄も含め、身体に限定しない「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。 玄関の施錠に関しては、家族会の希望と建物の構造上施錠を行っているが、入居者様の希望があれば随時職員が同行し戸外へ出て頂いている。</p>	<p>身体拘束に関する研修を実施し、職員の意識向上を図っています。身体拘束に限らず、言葉による拘束についても重要と考え、その都度注意しあえる環境を作っています。玄関は、日中過ごす食堂から死角となっており、家族の希望もあり、現在は安全を優先し施錠しています。利用者が外出しそうな様子を察知した時は、職員と一緒に外出するなど、自由な暮らしを支援しています。</p>	<p>利用者に閉塞感を与えないよう、外出したいときには職員も付き添う等の対応をしていますが、拘束と安全面について家族と話し合い、今後は段階を踏んで玄関を開錠できるよう、取り組むことが期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホーム内の研修(勉強会)や外部研修への参加をとおり、虐待防止に関する理解を深め、言葉の使い方や、心情に関する事柄も含め、虐待防止に取り組んでいる。また、些細なことも見逃さないよう日々の観察を怠らず、記録に残し共有の徹底を図っている。</p> <p>また、日常のコミュニケーションは基より、管理者/両棟主任が役割分担し定期的なヒヤリングを行い、業務に関する改善や職員のストレスの軽減に努め、虐待防止に取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>入居者様の中にも制度を活用されている方もおられ、職員もホーム内の研修(勉強会)や、外部研修への参加をとおり理解を深めることで、適切な支援ができるように取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、その後の紛争を未然に防ぐ意味合いにおいても専門的な用語を使わず、時間をかけ項目ごとに詳しく分かり易く説明するように心がけ、ホーム側からも不安や疑問点を項目ごとに尋ね、十分な説明、理解・納得を図るよう心掛けている。また契約時以外においても、利用料等の改定の際には、そのつど全家族様へ十分な説明を行うよう心がけ、理解・納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々のケアの中で、入居者様の意見や要望等はコミュニケーションを通じ確認するように努めている。また、家族様等には来所時は基より、家族会、運営推進会議などを通し意見を頂き、案件に応じ電話連絡を密にするなど、些細なことでも言い易い環境づくりを心掛けている。苦情相談窓口として、民生委員や第三者委員、福祉サービス苦情解決委員会、大阪府社会福祉協議会運営適正委員会の案内を玄関に掲示、ホーム内でも随時受け付け、ホームの質の向上に役立てるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族からより多くの意見や要望を出してもらえるように、家族の来訪時には声かけをして、言いやすい雰囲気作りを心掛けています。家族会を年2回開催し、家族同士の交流の機会にしています。毎月家族に送る「こころあい便り」には、利用者の1ヵ月の様子の写真とともに、居室担当者が利用者一人ひとりのホームでの様子や健康状態を手書きで書き込んでいます。行事の行先について、職員が新しい行き先を検討していると、「同じところでも、今年も行けただけで嬉しい」と家族から言葉ももらい、職員が気づかされた事例があります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的な個別面談等を通じ職員の意見を把握、定例会議にて報告・共有し、反映させている。</p> <p>日常の職員間のコミュニケーションの中でも意見交換を図り、毎月の定例会議やカンファにおいても意見を述べる機会を作り、運営に反映させている。</p> <p>また、職員の意見や提案について、管理者は法人内の運営会議にて、代表者、取締役、同法人内の他事業所管理者等に報告し運営に反映させている。</p>	<p>毎月1回、全職員参加の会議で意見を出し合っています。会議では、利用者のカンファレンスも行います。日常的にも意見を表出しやすいよう、雰囲気づくりを大切にしています。定期的に個別面談を実施し、職員の意見を聴く機会も設けています。管理者は、研修への参加やグループホーム間での職員交流会などへの参加も、積極的に支援しています。職員の意見を尊重し、チームワークのよい職場環境です。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務表作成にあたり、事前に希望休暇を3日間訊いており、他にも個々人の諸事情に応じる勤務体制を整備している。また、やりがいや向上心を持ってもらえるように、仕事への動機付けを説明し、自発性に結び付くようにとティーチングやコーチングに努め、職員個々が目標を達成できるよう環境・条件の整備に努めている。代表者はホームに訪れる機会が少ないため、法人内の運営会議での報告や稟議書を通して把握に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月、定例会議での勉強会をはじめ、同法人内での交換研修や新人研修、新入職員への伴走によるトレーニングにも取り組んでいる。代表者も参加し、個々の人間力の向上を目的に社内木鶏会を開催し同法人内他事業所職員との交流の場も設けている。また、外部研修に関する情報を職員間で回覧し、参加後に得た情報も共有している。働きながらの資格取得に関しても、シフトや金銭面での応援制度を設けている。代表者はホームに訪れる機会が少ないため、法人内の運営会議での報告を通して把握に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域独自のネットワーク「みやびネット」に参画し、ネットワークづくりに取り組んでいる。</p> <p>法人内他施設との交換研修や、その他、市のGH部会、介護フォーラム、キャラバンメイト養成講座、GH職員交流会、計画作成の集い等への参加・交流をつうじ、勉強会や情報交換・共有を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。</p> <p>また、にじの会（GH入居者様交流会）への参加・交流をつうじ、入居者様間にも情報交換・共有が図れる機会を設けている。代表者はホームに訪れる機会が少ないため、法人内の運営会議での報告を通して把握に努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人様の話を傾聴し、思いを受け止め安心して生活して頂けるよう信頼関係の構築に努め、会話が困難な場合も、表情やしぐさ等から思いを受け止めるよう努め、各入居者様の個別のニーズを聞き出すよう心掛けている。家族様との情報交換は基より、市町村からの介護相談員の訪問も活用している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居初期は基より、来訪時や、年2回の家族会開催時等、個別に家族様のニーズを聞き出すよう心がけ、一日でも早く、相互が信頼しあえる関係の構築に努めている。</p> <p>日常でも電話やこころあい便りを通じ、常に些細なことでも報告し、家族様側からも些細なことでも話して頂けるよう働きかけている。常日頃から、家族様等の思いや要望等を話し易い環境作りを全職員で心がけ、信頼関係の構築に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人様や家族様とのコミュニケーションを重視し、要望を聴きニーズを理解することで、必要な支援に対し他のサービス利用も含めた情報を提供し対応に努めている。</p> <p>また、ご本人様や家族様がその時に必要とされているサービスの提案と説明を行い、同意して頂いたサービスについては職員間で共有し、対応と実践に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様と共に生活しているという考えの下、入居者様の主体的な生活を支えるという立場で、個々に応じたできる事（掃除、洗濯、調理、買い物等）の役割を持って生活して頂けるよう支援に努めている。また、他者様との良好な関係や、入居者様と職員が助け合い、支え合う関係を構築し「共に歩む」楽しさや喜びを日々大切にし、日頃から感謝の気持ちを伝え、信頼関係構築に努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>こころあい便りをはじめ、来訪時や電話等で家族様に対し、本人様の情報・状況を良い事も悪い事も隠さず報告することで、常に職員と同じ情報を共有して頂き、家族様にも一緒に考えて頂き、意見を取り入れている。</p> <p>ご本人様と家族様との関係を大切に考え、共にご本人様を支えていける関係の構築に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理念でもある「その人らしい」を大切に考え、人間関係の保持を重要視し、本人様の思い出の場所や入居前のなじみの店に買い物に行く機会、また家族様との絆は基より、入居前のなじみの人との交流の機会も遮断されることが無いよう、地域へ出ていく事で地域の方との関わりを継続できるよう支援に努めている。また、ご本人にとって大切にしている思い出等の記憶が途切れないように日頃の会話においても、意識した関わり・支援に努めている。	入居時に家族や本人から生活歴や交友歴などを聞き取り、記録しています。入居前に住んでいた近所の人や福祉委員の人たちが訪問しています。入居前に住んでいた家を訪ねると、近隣住民が利用者に声をかけることもあります。また、お酒を買いに行く店の店主とも交流が続いています。馴染みの人や場所との関係継続の支援を通して、職員は、利用者一人ひとりの長い人生に思いを馳せ、これまでの生き方を尊重する大切さを学んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々人の性格等に配慮し、入居者様同士の相性も踏まえ、良好な関係を構築・保持できるよう、落ち着いた場所を確保し、コミュニケーションの困難な入居者様も職員が介入する等して孤立することなく、良好な関係を築けるよう支援に努めている。またレクリエーションや日々の役割の中で入居者様同士が互いに協力し支え合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も出会ったご縁を大切に、必要に応じて、家族様からのご意見・相談を受けることが出来るよう支援に努めている。また、入居中のアルバムを作成し、職員や他入居者様からのメッセージを添え、いつでも来所して頂けるようにとお声を掛け、関係性を維持できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子観察を徹底し、本人様の希望を聴くことはもちろん、言葉にならない思いを組み取れるように努め、職員間でのカンファレンスをはじめ、家族様からも情報を収集し、全職員間で共有、検討することで本人様本位であるよう努めている。	職員は、利用者一人ひとりの思いや希望等の情報について、アセスメントシートで共有しています。職員が気づいた行動については、アセスメントシートに補足しています。入居1ヵ月は、初期行動観察表を用いて、利用者理解に工夫しています。	日常的な支援の中で気づいたことや発見の記録を工夫し、よりその人らしい暮らしの支援に活かすことが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、家族様の情報等からこれまでの生活背景の把握に努め、他施設からの入居、他サービスの利用等に関しては、介護支援専門員等から情報を収集し把握に努めている。また、可能な限りではあるが、日常の中でも本人様からのお話を聴かせて頂く事で、出来るだけ以前の生活に近づけるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>過去・現在の病歴を把握し、日々の様子観察や職員からの申し送り、カードックスの把握、バイタル・行動・表情の変化を確認しながら、心身状態の把握に努め、職員間をはじめ家族様とも共有を図っている。毎朝の医療連携機関への報告時（健康管理表での）にも、状態を伝え指示を仰ぐことで早期対応に努めている。また、入居者様の有する能力の把握は基より、それらの能力を継続して発揮して頂けるような支援に努めている。日常の中でも、新たな可能性を見出させるように情報共有を図り、職員側の支援により有する能力や可能性が閉ざされてしまうことがない様に配慮している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月の定例カンファレンスの際のモニタリングや、3カ月毎の居室担当によるモニタリング等から、課題・ニーズの修正・変更の有無確認を行った上で、現在6か月毎に、ケアプランの見直し・更新を行っている。定例カンファレンス以外にも必要に応じ、随時カンファレンスを行い、日常においても職員間で意見交換を行いケアプランの実践に繋がっている。体調(状態)変化時や入・退院時等には、随時(本人様の状況に応じ、連携医の見解をもとに、家族様の意向をふまえ)新しい介護計画書に反映させるようにしている。</p>	<p>入居最初の計画は、入居時の情報を基にカンファレンスを実施し、暫定プランを作成します。1ヵ月間は、初期行動観察表に記録し、モニタリングの後、介護計画を作成する流れになっています。計画作成担当者は、利用者本人の思いを尊重し、職員全員で作る介護計画を心掛けています。一人ひとりの介護計画は、利用者や家族の思いや希望が尊重され、家族が安心できる計画になっています。介護計画は介護サービスチェック表と連動させて、日々実施状況を確認していきます。居室担当者がモニタリングを行い、必要に応じて毎月の全体会議時にカンファレンスを実施します。更新は、基本6か月毎に介護計画を見直しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子や言動、表情をありのまま記録し、日々の申し送り等を含め情報共有を行っている。また、介護計画をふまえた上で、気づきや、変化等もカンファレンスで情報交換し、見直しや日々のケアの実践に反映させるようにしている。また、介護サービスチェック表を、介護記録と一対として記入することで個別の介護計画が実践できているかをチェックした結果や、カンファレンスでの情報や評価を踏まえ介護計画の更新時に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームは「居住系」の性質上、同じ地域密着型の小規模多機能と異なる部分があり、多機能化という視点では難しいように思えるが、家族様等にも協力を仰ぎ、本人様の希望に叶うよう取り組んでいる。また、面会（好きな時間での）・外出（選挙・墓参り等）・外泊（旅行等）・居室への家族様の宿泊等のニーズにも添うよう努めている。その時々生じる様々なニーズ（個別のリハビリや医療機関受診等）にも、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型という位置付けにあり、行政及び福祉委員・民生委員・老人クラブの方々との、定期的な交流や、地域の学生や住民との直接的なふれあいの機会を設けている。また地域との関わりの中で、本人様にもご自身自体も地域の資源であると感じて頂けるように、小学校の登下校時の見守り(旗振り)参加等、心身の力を発揮しながら安全に心豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎朝の医療連携機関への報告（健康管理表）や、かかりつけ医による定期的往診（月1回/全入居者様）、ラウンド往診（毎日/1人）、定期検査を受けながら、日々の健康状態の安定に努めている。また、訪問看護においても状態に応じ訪問回数を増やす等、健康状態の安定に努めている。日々の状態観察の中で、変化があれば医師/看護師だけではなく家族様にも報告し共有している。また、必要に応じ紹介状を書いて頂き、専門医療機関の受診を行っている。病床付医療機関とも提携し特変時にも対応できるよう努めている。心身の状態により本人様や家族様の意向に合わせ、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からかかりつけの医療機関へは、希望があれば受診可能です。協力医による往診もあります。毎朝、医療連携機関へ健康管理の報告を実施しており、日々の健康管理の安定に努めています。24時間医療支援体制をとり、夜間の緊急時体制も整えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の身体状況の把握により、気付いた点や気になる点等は、定期的訪問（週2回）時に、報告、相談し、指導を受けることで、早期対応（適切な受診や看護）と悪化防止に努めている。また、定期的訪問以外にもラウンド往診時や、24時間のオンコール体制により、必要に応じ報告、相談、指示・指導を受けている。また、看護職からの職員への助言や指示・指導は常に職員間で共有し、日々のケアに反映させている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入居者様の入院に際しては、当ホームのサマリー提供をはじめ、入院期間中も面会による状況把握、病院関係者との関係構築を図り、情報交換に努めている。</p> <p>退院時は、主治医をはじめ必要に応じて理学療法士等の専門職からも、指示や助言を頂き、プラン（暫定）を作成し、退院後の日常生活上の留意事項の把握に努め、事前に必要な環境を整え本人様に安心して、退院して頂けるよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際に意思変更可能である事も説明した上で、重度化・終末期に関する意向を伺っている。実際に重度化、終末期を迎えられる際にも医師、管理者、家族様（参加可能な状況であれば本人様含む）で今後の検討の話し合いの場を設定し、最終的には、医師の見解と、家族様（本人様）の意向を確認した上で、全職員間で情報を共有し、家族様（本人様）の意向を尊重した支援を目標に掲げ、チーム一丸で看取り介護に取り組んでいる。</p> <p>また GH は看取りが可能とされながらも、医療的ニーズの充実には困難なこともあるため、連携医の助言に基づき、早期の段階より家族様への説明および了承を得ながら、必要に応じては他医療機関等への調整もおこなっている。</p>	<p>入居時に「重度化した場合における（看取り）指針」を家族に説明しています。重度化により必要が生じた段階で、利用者や家族、医療関係者を交えて話し合いをした上、「看取り介護についての同意書」をもらうようにしています。これまでに数例の看取りを行いました。看取りケアを行っている際は、記録ノートを居室に置き、家族の思いを書きとめてもらい、家族の気持ちを理解しながら進めています。また、職員の不安を共有できるノートも作っています。看取りが終わった後には職員間で振り返りを行い、看取りの経験からの学びを共有し、後悔しない看取りケアに活かす話し合いを実施しています。</p>	<p>今後は、看取りケアの振り返りによって表出された職員の不安や意見を、マニュアルを改訂する際に活かし、今後より充実した看取りケアの実践に繋げることが期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師による勉強会を定期的に行い、応急手当や緊急時対応のシミュレーション等の訓練、緊急時対応ガイドライン、緊急連絡網の整備、周知徹底を図っている。</p> <p>実際に急変や事故発生があった際には、事後にも検証を行う事で実践力を養うよう取り組んでいる。</p> <p>また、ホームにAEDを設置し、全職員の普通救命講習(AED)の受講を支援している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時のマニュアルを整備し全職員に通知し、避難経路の周知徹底を行っている。また、近隣周辺にも避難経路の説明や協力を依頼している。また、近隣周辺へ通知した上で、消防署の協力のもと消防署合同・ホーム単独で、年に4回避難訓練を行い、マニュアル改訂を含め災害時対策に備えている。避難訓練には、地域福祉委員、家族様にも参加して頂き、マニュアル改訂を含め災害時対策に備えている。避難訓練以外にも、月に数回職員間でシミュレーションを実施している。</p>	<p>年に4回の避難訓練を実施しました。消防署の指導も受けています。夜間を想定しての訓練に力を入れています。訓練には、運営推進会議でのアドバイスで、地域住民も参加してもらっています。スプリンクラーの他に煙探知機や熱探知機が設置され、災害発生時のマニュアル、連絡体制も整っています。非常災害時の水や食料品も準備しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の誇りや自尊心を大切に考え、プライバシー（排泄に関する声掛け、個人情報等含）を損なわない様に個々に応じた声掛け、見守りを行っている。 また、勉強会においてもプライバシー保護を取り上げ、学ぶ機会を設けて意識を全職員間で共有し、日々のケアに活かせるよう努めている。	管理者は、職員に日常の中で利用者の尊厳に配慮したケアについて、日々の声かけ等、具体的に伝えています。 職員も日常的に一人ひとりに配慮した、言葉かけや見守りに心がけています。定期的に、プライバシーや個人情報保護についての学習会も実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り個々の希望に添える様に、いくつかの選択肢を示す事で、自己決定して頂ける様働き掛けている。また、日常のさりげない会話やコミュニケーションを通じ、言葉による意思表示や、自己決定の困難な入居者様に対しても発語や動作、表情等を観察する事で意思を汲取れる様努め、家族様にも相談・確認しながら希望に添うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の個々の状態、ニーズ等を把握した上で、希望に添うよう努めている。居室で過ごされたり、フロアで他者様と過ごされたり、それぞれ個人のペースを尊重し、生活リズムや安全面にも配慮を行いながら、個々人の思いに寄り添えるように支援している。「そのひとらしく」を一緒に考え、希望に添うよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容をはじめ、月に1度は美容師に来て頂き、希望に応じた髪型にされたり、整容品等も個人の嗜好に合った物を使って頂いている。ご自身でされる方には自身で頂き、支援が必要な方には選択肢を提示し、自己決定して頂けるよう支援に努めている。服装もご自身で選択して頂けるようお声かけと見守りを行い、おしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。また、食事の際の食べこぼしにも配慮しながら清潔保持にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、買い物、調理、盛り付け、後片付け、配膳、下膳等を各入居者様のできる範囲で共に行っている。食べる事だけではなく準備の段階から、会話や自身ができる事への実感等を楽しんで頂ける様な雰囲気作りも含めて取り組んでいる。また、外食・出前にて好きなメニューを選んで頂いたり、誕生日会ではメニューを入居者様に考えて頂き、目の前で共に調理したり、ケーキ作りを行う等、食への楽しみを感じて頂けるように取り組んでいる。	食材は業者から届き、毎食ホームで作っています。下ごしらえ、盛り付け、配膳・下膳等、利用者が関われることは共に行います。対面式のキッチンから、調理の音や匂いが広がり、利用者は食事を楽しみに待っています。時には出前を取ることもあり、利用者は選ぶことも楽しんでます。誕生会のケーキは皆で手作りします。職員は利用者と共に同じテーブルにつき、介助の必要な方にはさりげなく介助し、会話を楽しみながら食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提供会社よりカロリー計算されたメニューを、ホーム内で調理し個々の食事形態に合わせて提供している。定期の体重測定で体重の減少等が見られる際は、補食の提供等で追加栄養摂取して頂き、必要栄養分量の確保に努めている。また、血糖値に注意が必要な方には、主治医・看護師の助言を踏まえた食事提供をおこない、状態の安定に努めている。水分補給に関しては、いつでも自由に飲んで頂ける様お声掛けし、摂取量を記録、15:00 時点で中間計算し、1日最低でも1,000ccは摂取して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じたお声掛け・見守りを行いながら、自己にて困難な部分を介助させて頂き口腔ケアを行っている。個々人の口腔状態の把握に努め、週1回の歯科衛生士による口腔ケアと月2回の歯科医師による治療往診を受けられ、歯科医・歯科衛生士の意見も反映させた口腔ケアの実施に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、個々の排泄状況を把握した上で、排泄のお声掛け・誘導を行っている。また、失禁の軽減が図れる様、お声掛けの間隔や状況に配慮し、安易におむつを使用せず、出来るだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。お声掛け・誘導を継続しながらも失禁増加による本人様の落ち込みや混乱等が著しい場合は、パットやRパンの使用を検討し、本人様の心身の負担軽減を図っている。	排泄の記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しています。利用者の習慣や状態、利用者の心身にも配慮して、居室でポータブルトイレを使用する等の個別対応を行い、積極的に自立に向けた支援をしています。リハビリパンツから、布パンツになった利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>下剤の使用のみに頼らず、水分摂取量の増量、乳酸製品・寒天・イモ類等の食品摂取、腹部マッサージ、ホットパック使用や体操等を行い、便座に座われた際にもいきみのお声掛けや腹部マッサージ、ウォシュレットにて刺激する等、自力での排泄と便秘予防に努めている。また、排便時の量や形状等を観察・記録し主治医・看護師に相談・助言・指示を頂いている。それでも排便が見られない時は、医師の指示による下剤の調整や、坐薬の使用、看護師による浣腸・摘便等で対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	十分に見守り出来る安全な環境で入浴して頂くため、週3日(2日に1度)の入浴を基本に、個々に入浴を楽しんで頂けるよう時間帯や入浴の順番、温度等は本人様の体調を考慮した上で希望に添えるように調整している。湯船に浸かって(個々に応じて簡易リフトを使用)頂き、身体を温めて頂くことは基より、入浴中のコミュニケーションを通じ心身のリラックスを図れるよう支援している。また、入浴剤やシャンプー・ソープ類、洗身タオル等は個々人の好みの物を使用して頂いたり、季節湯(ゆず湯)等で楽しんで頂くなどしている。	利用者は、週3回の入浴を基本にしており、入浴時間帯や温度等の希望も取り入れています。身体機能の低下により簡易リフトを使用し、体調によっては臨機応変にシャワー浴にしたり、湯量、浴槽内時間等を調整し、利用者は、安全に入浴を楽しんでいます。また、利用者が入浴を楽しめるように、好みの入浴剤やタオルを使用し、季節の菖蒲湯等も取り入れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の体調やニーズは毎日変化するので、体調管理を重視しながら、居室での昼寝や、ソファーや座イス、ビーチチェア等も利用し、出来るだけ本人様の希望に添える様に休息して頂けるよう支援している。</p> <p>また、心地よい睡眠を取って頂けるよう環境整備（寝具、室温、湿度、空調、調光、保温等）や臥床姿勢（クッション等使用）に配慮し、気持ちの昂りで眠れない時等は、安心して眠って頂けるよう、コミュニケーションによる気分転換を図るなど、隣に寄り添い支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々の薬情については全職員が把握し、薬の変更・増減に関しての把握もカードックスや申し送りを通し周知徹底するよう努めている。服薬介助の際には、ミスが無いよう二重、三重のチェック態勢での服薬支援に努めている。</p> <p>また、服薬後の観察を怠らず、職員間で情報共有し、医師・看護師に報告している。</p> <p>また、薬剤師による勉強会を設け、薬（効果、効能、注意点等）への理解を深めるよう取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の習慣や、生活歴を本人様・家族様等から情報を頂き、それらを活かした役割等を職員側から入居者様へ提案する形で、入居者様の意思を尊重し入居後も継続して頂けるよう支援している。個々の果たす役割が、個々人の喜びや、張合い、生きがいへと繋がるように取り組んでいる。 また、喫煙や買い物、外出、出前、外食、ホーム内レクリエーション（行事含）等においても、希望を反映出来る様に取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の個々の身体的な状態や天候等に配慮し、いくつかのグループ別や個別対応等、出来る限り本人様の希望に沿って、外出（散歩や買い物）して頂けるよう支援している。他にも、隣接する小学校の登下校時の旗振り（見守り）への参加等、地域との関わりを持ちながら外出できるよう取り組んでいる。また、家族様の協力の下、選挙や墓参り、一時帰宅や外泊等の支援を行っている。外出行事の際には、入居者様の希望を行き先等に反映させるようにしている。	外出チェック表を作成し、個別支援やグループ支援により、できるだけ戸外に出る機会を作っています。日常的に玄関先の花壇の手入れ、散歩や買い物等の外出、隣接する小学校の登下校時の旗振り（見守り）や運動会、マラソン大会の応援等、利用者の希望や状態に応じた外出をしています。遠足や花見、花火大会等の行事時には、家族や地域の福祉委員等の協力も得ています。さらに、外出の機会が広がるように、家族や新たな支援者の協力にも取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の自己管理に関しては、難しい事が多いので、多数の入居者様はホーム側で預らせて頂いているが、中には家族様の了解の下、少額の金銭を自己にて管理して頂く等、個々人に合わせた支援を行っている。また、外出時の買い物での精算の際には、本人様にお支払いして頂ける様に支援を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人様の希望があれば、自由に電話や手紙の遣り取りをして頂けるよう、支援を行っている。 また、毎年家族様への年賀状も出来る範囲で本人様直筆のものを郵送している。レクリエーション等で作成したものに、本人様から家族様へのメッセージを記入したものを、こころあい便りと一緒に送付している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にて、不安や混乱無く、くつろいで過ごして頂けるよう安全を配慮した上で、共用空間の壁には季節に応じた装飾や入居者様が作成された作品、各入居者様の思い出の写真を貼る等、和めるような雰囲気作りを心掛けている。 また、季節に応じた装飾や花を飾る等、ホーム内でも季節を感じて頂けるよう心掛けている。共用空間の環境整備（室温、湿度、空調、調光、換気、音、等）にも配慮し、居心地良く過ごして頂けるよう努めている。	隣接して小学校があり、日々子どもたちの声や姿があります。玄関先には、花壇、中庭には菜園があり、利用者も季節の花や野菜の栽培をして、季節感を感じています。リビング兼食堂には、行事の写真や利用者の作品等が飾ってあり、リビングのカウンター越しのキッチンからは、ご飯の炊ける匂いや食事の準備をする音が聞こえ、生活感が漂っています。日中、利用者は各ユニットを自由に行き来でき、リビングや畳のスペース、ソファ等でゆっくりと居心地良く過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の椅子の他にも何箇所かにソファを配置し、フローア隣接の和室（こたつ）等、入居者様個々人が好きな場所で、入居者様同士の会話を楽しまれながら過ごされる等、思い思いにリラックスして頂ける空間創りを心掛けている。 また、入居者様同士の相性にも配慮し、個々人が思い思いに過ごして頂ける空間づくりを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、入居者様のご自宅で使用されていた愛着のある家具等を持ち込んで頂く事で、以前の生活との変化を最小限におさえ、家具の配置も安全を配慮した上で、本人様が混乱されない様配慮している。 また、家族写真や思い出の物を飾る等し、本人様が居心地良く安心して過ごせる空間づくりを心掛けている。	居室には、利用者が自宅で使い慣れた馴染みの布団やベッド、家具類、思い出の家族写真や人形等の品々を思い思いに持ち込んでいます。居心地良く個性的な居室で、利用者はテレビを見たり、新聞や雑誌を読んだり、安心して過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の介護計画を基に「できること」「わかること」が継続できるよう、生活意欲の向上に繋がる様なお声掛けや役割を共有し、「その人らしい」を念頭に、入居者様の目線に合わせて、トイレや居室の場所を掲示する等、認識の混乱削減に努め、出来るだけ自己能力を活用して頂けるよう支援している。 また、安全面においても危機管理委員会を通し、安全な導線の確保と事故防止に努め、全職員で安全かつ自立支援に繋がる様な環境作りに取り組んでいる。		